

目 次

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー).....	1
募集人員.....	6
出願資格.....	6
【注意】 TOEFL Testのスコア提出等について	8
出願手続.....	9
受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談.....	16
入学者選抜方法等.....	16
試験日時及び試験場.....	17
受験上の注意事項.....	17
合格者発表.....	17
入学手続.....	18
個人情報の取扱い.....	19
入試情報の開示.....	19
学部の紹介.....	20
学生生活.....	24

(添付書類)

1. 入学願書(裏面も記入すること)・受験票・写真票
2. 志望理由書
3. 履歴書
4. C票 振込金受付証明書(入学検定料の納入上の注意)
5. 納入確認票
6. 宛名ラベル(合格通知書・入学手続案内送付用)
7. 「受験票在中」封筒
8. 「入学願書在中」封筒

私費外国人留学生選抜に関する問合せ先 (裏表紙裏面)

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

大学の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

(1)知識・技能

- ・ 大学入学後の専門を学ぶための基礎となる知識・技能を有する人

(2)思考力・判断力・表現力

- ・ 課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・ 多様で広い知的関心をもち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人
- ・ 身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

【入学後の期待】

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。

2. 入学者選抜の基本方針

各学部の特性に応じて、求めている資質・能力を適切に評価することができる選抜方法により実施する。

経済学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

これまでの学びの機会を通して、次の知識・技能、能力、態度を身につけようとしてきた人を求める。

(1)知識・技能

- ・ 社会の複合的な課題を発見・理解するための幅広い基礎的知識を有する人

(2)思考力・判断力・表現力

- ・ 認識した課題を分析・解決するための思考力・判断力・表現力を有する人

(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・ 解に至る道筋を粘り強く考え続ける能力を有する人
- ・ 課題解決の実践にあたり、多様な人々と対話し、協働するためのコミュニケーション能力と意欲を有する人

【入学後の期待】

入学後には、自らがさらに努力を重ね、多くの人と関わり合いながら、経済・社会の活動に関わる諸問題に一層の関心を持ち、これまでに身につけた能力を磨くとともに、複数の専門領域を包摂した教育課程を通して、次の知識・技能、能力を身につけることを期待する。

- (1)経済学、経営学、会計学、情報学、法学などを中心とした専門知識
- (2)専門知識を領域横断的に活用した理解力、思考力、表現力
- (3)主体的に学び、考え、多様な人々と協働する能力

2. 入学者選抜の基本方針

- (1)一般選抜(前期日程)では、大学入学共通テストと個別学力検査等により入学者を選抜する。大学入学共通テストにおいては、高等学校等で学ぶ各教科の基本的な知識を評価する。個別学力検査等においては、英文を含む総合問題と数学の知識・技能・思考力を問う総合問題を課し、社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を備えているかを評価する。
- (2)一般選抜(後期日程)では、大学入学共通テストと個別学力検査等により入学者を選抜する。大学入学共通テストにおいては、外国語の理解力と特定分野の知識を、優れた成績を取めた科目に配慮し評価する。個別学力検査等においては総合問題を課し、論理的に考え、判断し、論述する力を評価する。特に、社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を重視する。
- (3)学校推薦型選抜では、高等学校等において身につける学力のうち、基本的な知識の修得状況と学ぶ意欲、社会科学を学ぶ上で必要な理解力(読解力)・論理的な思考力・表現力(文章力)、他者との議論や協働的な活動の礎となるコミュニケーション能力を、それぞれ出願書類、小論文、及び集団討論により評価し、入学者を選抜する。
- (4)学校推薦型選抜(スポーツ)では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上で必要な理解力(読解力)・論理的な思考力・表現力(文章力)を小論文により評価する。これに加えて、基本的な知識の修得状況、顕著な成績を取めたスポーツ活動において培われた主体性や多様な人々と協働する力、及びスポーツの実践、普及、振興についての関心を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜する。
- (5)学校推薦型選抜(簿記)では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上で必要な理解力(読解力)・論理的な思考力・表現力(文章力)を小論文により評価する。これに加えて、基本的な知識の修得状況、及び経済・経営・商業活動に関する知識・技能・思考力を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜する。
- (6)社会人選抜では、高等学校等の卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける姿勢などを出願書類及び面接により評価し、入学者を選抜する。
- (7)帰国生徒選抜では、諸外国での学びと日本における学びのためになされた種々の活動を面接と出願書類により評価し、入学者を選抜する。
- (8)私費外国人留学生選抜では、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたってなされた学びの成果を日本留学試験と出願書類により評価する。あわせて日本語の運用能

力を面接により評価し、入学者を選抜する。

(9)第3年次一般編入学選抜では、他大学等での学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力をそれぞれ小論文と出願書類により評価する。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜する。

(10)第3年次推薦編入学選抜では、他大学等での学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力を出願書類により評価する。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜する。

システム工学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

システム工学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

(1)知識・技能

- ・これまでの学びを通して大学入学後の複数の科学・技術領域を見通し、情報教育を基盤として複合的に工学系分野の専門を学ぶための基礎となる学力・技能、特に理数系における確かな知識を有する人

(2)思考力・判断力・表現力

- ・課題を解決するための思考力・判断力を有する人
- ・意見や考えを他者や社会に分かりやすく伝えるための表現力を有する人

(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・他者を尊重し、その意見を受け入れる柔軟性、協調性を有する人
- ・何事にも好奇心・探求心を持ち、創造力を身につけようとする真摯な態度を有する人

【入学後の期待】

入学後には、自ら学び考える力を持ち、次の観点から、学術・産業研究を含む広範な工学系分野で活躍する自律的な技術者を目指すことを求める。

- (1)自分自身の思い描くキャリアパスを客観的に考え、それに応じた2つのメジャーを選択すること
- (2)情報技術に関する基礎知識・技能と、メジャーが提供する専門知識・技能を主体的に修得し、時代や社会が求める実践的な力を身につけること
- (3)異なる知識や技能を、断片的にではなく体系化して身につけ、課題を解決する能力へと高めること
- (4)課題解決に向けて、他者と協働して取り組む能力や意見や考えを論理的に伝えるコミュニケーション能力を身につけること
- (5)広範な視野で専門をより深化させ、産業や社会のニーズに即応できる実践力と創造性を養うこと

2. 入学者選抜の基本方針

- (1)一般選抜(前期日程)では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、数学的思考力と英語の理解力を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜する。
- (2)一般選抜(後期日程)では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜する。
- (3)学校推薦型選抜では、明確な目的意識をもって入学を希望し、かつ、出身学校長より推薦を受けた者のうち、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、目的意識や学修意欲などを面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (4)私費外国人留学生選抜では、日本に留学するためになされた学びの成果を日本留学試験、出願書類、面接により評価する。あわせて、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、日本語運用能力を面接により評価し、入学者を選抜する。
- (5)第3年次推薦編入学選抜では、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する基礎学力や専門に対する適性を面接と出願書類により評価する。あわせて、目的意識や学修意欲などを面接により評価し、入学者を選抜する。
- (6)第3年次一般編入学選抜では、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する専門知識などを学力検査により評価する。あわせて、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する専門知識・技能や目的意識、学修意欲などを面接により評価し、入学者を選抜する。

観光学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

観光学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

(1)知識・技能

- ・観光学部における専門分野の学修に必要な基礎学力を有する人

(2)思考力・判断力・表現力

- ・主体的かつ積極的に課題に挑戦するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有する人

(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・新しいものごとへの好奇心・探究心、多様な文化・歴史・地理・言語や現代の社会情勢に対する幅広い関心を持ち、他者と関わって学ぼうとする意欲や態度を有する人
- ・身につけた知識や技能を活用し、主体的かつ創造的に課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

【入学後の期待】

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、観光に関わる諸問題に一層の関心を持ち、観光学部の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルまで資質・能力を高めることを求める。

2. 入学者選抜の基本方針

- (1)一般選抜(前期日程)では、入学後の専門知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入学共通テストにより、また、思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を個別学力検査等により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (2)総合型選抜では、入学後の学修に必要な思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を書類審査、指定された課題のプレゼンテーション、出願書類等に基づいた面接により多面的に評価し、入学者を選抜する。
- (3)学校推薦型選抜では、入学後の専門知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入学共通テストにより、また、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を高等学校等で意欲的に取り組んだ活動実績、資格取得等により、さらに入学後の学修に必要な思考力・判断力・表現力を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (4)社会人選抜では、入学後の学修に必要な理解力・論理的思考力・判断力・表現力を小論文により、また、高等学校等卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける意欲や態度を出願書類及び面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (5)私費外国人留学生選抜では、入学後の学修に必要な理解力・論理的思考力・判断力・表現力に加え、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたっての学ぶ意欲や態度、日本語運用能力を日本留学試験、出願書類、面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。

募集人員

学 部	学 科	募集人員
教 育 学 部	—	募集なし
経 済 学 部	経 済 学 科	若 干 名
システム工学部	システム工学科	若 干 名
観 光 学 部	観 光 学 科	若 干 名

出願資格

次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者

【基礎資格】

次の各号のいずれかに該当する者

1. 外国に所在し外国の教育制度に基づく教育機関において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和6(2024)年3月31日までに修了見込みの者
2. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者と同等の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定(国の検定に準ずる者を含む。次号において同じ。)に合格した者で、令和6(2024)年3月31日までに18歳に達するもの
3. 外国に所在し外国の教育制度に基づく教育機関において、高等学校に対応する学校の課程を修了した者(これと同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定に合格した者を含む。)で、文部科学大臣が別に定めるところにより指定した我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程を修了したもの及び令和6(2024)年3月31日までに修了見込みのもの
4. 外国に所在し外国の教育制度に基づく教育機関において、高等学校に対応する学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを修了した者及び令和6(2024)年3月31日までに修了見込みの者
5. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を外国において取得した者
6. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を外国において取得した者
7. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を外国において取得した者
8. グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を外国において取得した者
9. 国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)から教育活動等に係る認定を受けた外国に所在する教育施設に置かれる12年の課程を修了した者

【要件】

次のすべてに該当する者

1. 日本国籍を有しない者(日本国の永住許可を得ている者を除く)
2. 日本の大学において教育を受ける目的をもって、出願期間中のいずれかの期日を含み日本に入学している者

3. 出入国管理及び難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格を有する者及び取得できる見込みの者
4. 独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験した者で、出願する学部の指定する【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFL Testにおける出願要件】（7ページ参照）を満たす者
5. TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFL Testのいずれかの成績が、出願する学部の指定する【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFL Testにおける出願要件】を満たす者

※インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の外国の教育機関出身者は、出願が認められない場合があるため、必ず出願前(できるだけ早い時期)に、出願資格があるかを裏表紙裏面の志望する学部の照会先に照会してください。

【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFL Testにおける出願要件】

試験 学部・学科		日本留学試験						TOEIC Listening & Reading Test	TOEFL Test iBT (インターネット 試験)
		日本語	総合 科目	理科	数学	得点等	摘要		
経済学部	経済学科	○	○	×	「コース1」	「日本語」の得点が200点以上 「総合科目」と「数学」の合計得点が240点以上	「総合科目」「数学」の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	450点以上	42点以上
工学部	システム工学科	○	×	○	「コース2」	「日本語」の得点が200点以上 「数学」と「理科」の合計得点が240点以上	「理科」の選択科目は、物理、化学、生物のうち任意の2科目を選択とします。各科目の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	410点以上	42点以上
観光学部	観光学科	○	総合科目 又は 理科の いずれか		「コース1」 又は 「コース2」 のいずれか	各科目の得点が平均点以上	「理科」の選択科目は、物理、化学、生物のうち任意の2科目を選択とします。 「総合科目」「理科」「数学」の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	450点以上	42点以上

(注1) 日本留学試験の成績を利用できるのは、令和4(2022)年度の6月実施分若しくは11月実施分又は令和5(2023)年度の6月実施分若しくは11月実施分のいずれかの試験結果とします。

(注2) TOEIC Listening & Reading Testのスコアは、出願期間最終日よりさかのぼること2年以内に受験した試験結果とします。

(注3) TOEFL Testのスコアは、出願期間最終日よりさかのぼること2年以内に受験した試験結果とします。Test Date Scoresのみ有効です。My Best Scoresは利用できません。

(注4) 日本留学試験の「日本語」に関して、「記述」の得点は利用しません。

【注意】 TOEFL Testのスコア提出等について

TOEFL Testのスコアを提出してください。

ただし、出願期間最終日よりさかのぼること2年以内に受験した試験結果とします。

「Official Score Report」
(TOEFL Test受験者がアメリカETSに申し込むこと。)

(注意事項)

TOEFL ITP Testのスコアは利用できません。

受験者が和歌山大学の下記志望学部が届くようアメリカETSに発行手続を行ってください。DI Codeは、志望学部により異なりますので、十分注意し手続をしてください。

受験者が発行手続を行った後、和歌山大学下記志望学部「Official Score Report」が直送されます。

発行手続には、志望学部毎の次のDIコード等が必要です。

DI Codeは、志望学部により異なりますので、十分注意し手続をしてください。

志望学部	Name of Institution	DI Code
経済学部	Wakayama University Faculty of Economics Student Affairs Section 2	B541
システム工学部	Wakayama University Faculty of Systems Engineering Student Affairs Section 3	B540
観光学部	Wakayama University Faculty of Tourism Student Affairs Section 4	B539

TOEFL Testの公式スコア「Official Score Report」が出願期間最終日の17時までに届かなかった場合、書類不備となり出願は受理できません。

本学に届くまで2か月程度かかる場合もありますので、時間には十分余裕をもって送付手続をしてください。出願期間前にETSから本学に到着させておくことができます。

出願手続

出願期間・方法

令和5(2023)年12月25日(月)～12月27日(水)

※郵送の場合は出願期間最終日の17時までに本学必着。

- ①出願者は、出願書類等を取り揃え、本学所定封筒を用い、提出してください。
- ②持参又は書留速達郵便により受付します。ただし、13ページ「5. 出願資格【要件】1、2を証明する書類」の4に該当する者は、志願者本人がパスポート持参の上、持参による出願のみ受付します。
- ③持参の場合の受付時間は9時から16時(12時から13時は除く)までとします。
- ④郵送の場合は、令和5(2023)年12月27日(水) 17時までに本学に必着したものに限りします。
- ⑤出願期間内に書類が届かなかった場合、書類不備となり出願は受理しません。

出願書類提出先

〒640-8510 和歌山市栄谷930

和歌山大学 学務課 学部等支援室 経済学部係

学務課 学部等支援室 システム工学部・社会インフォマティクス学環係

学務課 学部等支援室 観光学部係

出願書類

指示がなければ、出願書類は全て日本語で記入してください。

1	入学願書(裏面：出願資格) 受験票 写真票	<p>本要項添付の所定様式です。</p> <p>必要事項を全て日本語(日本語以外での記載の指示がある欄を除く)で自書してください。</p> <p>裏面の出願資格も忘れずに記入してください。</p> <p>出願前3か月以内に撮影した同一の顔写真(縦4cm×横3cm、正面向き、無帽、上半身、無背景の顔写真)を、入学願書・受験票・写真票の所定欄に貼付してください。</p>
2	志望理由書	<p>本要項添付の所定様式です。</p> <p>必要事項を日本語で自書してください。</p>
3	履歴書	<p>本要項添付の所定様式です。</p> <p>日本語又は英語で自書してください。</p>
4	証明書等 出願資格は6ページを参照してください。	<p>基礎資格1に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 中等教育の学校(日本の高等学校相当)の卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書 中等教育の学校(日本の高等学校相当)の成績証明書(各学年毎の成績が分かるもの) (注) 1及び2は出身学校長発行のものに限ります。 中等教育(日本の高等学校相当)の修了を認定する外国の統一試験等の合格(見込)証明書及び成績(評価)証明書(該当者のみ) ○該当者(その統一試験等に合格しなければ所在する国の中等教育(日本の高等学校相当)の修了と認められない教育制度の国で教育を受けた者)は、1、2に加え3を提出すること。 (参考) 外国の統一試験等 イタリア共和国の教育制度によるもの…Maturita(マトゥリタ)試験 その他の国の教育制度によるもの…国(州)の実施する統一試験等 <p>基礎資格2に該当する者</p> <p>大韓民国の「高等学校卒業学力検定考試」、アメリカ合衆国の「GEDtest」等がこれに該当します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 当該検定の合格証明書 当該検定の成績証明書 <p>基礎資格3に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 準備教育課程等入学以前に卒業した高等学校に対応する学校の成績証明書及び卒業(修了)証明書 (検定に合格した者は、その合格証明書及び合格成績証明書) 準備教育課程等の修了証明書又は修了見込証明書

		<p>基礎資格 4 に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中等教育の学校(日本の高等学校相当)の卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書 2. 中等教育の学校(日本の高等学校相当)の成績証明書(各学年毎の成績が分かるもの) (注) 1 及び 2 は出身学校長発行のものに限ります。 3. 中等教育(日本の高等学校相当)の修了を認定する外国の統一試験等の合格(見込)証明書及び成績(評価)証明書(該当者のみ) ※該当者(その統一試験等に合格しなければ所在する国の中等教育(日本の高等学校相当)の修了と認められない教育制度の国で教育を受けた者)は、1、2 に加え 3 を提出すること。 <p>(参考) 外国の統一試験等 イタリア共和国の教育制度によるもの…Maturita(マトゥリタ)試験 その他の国の教育制度によるもの…国(州)の実施する統一試験等</p> <hr/> <p>基礎資格 5 に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際バカロレア資格証書 (International Baccalaureate Diploma)の原本証明された写 2. 国際バカロレア資格最終試験 6 科目の成績評価証明書 <hr/> <p>基礎資格 6 に該当する者</p> <p>一般的大学入学資格証明書(Zeugnis der allgemeinen Hochschulreife)の原本証明された写</p> <hr/> <p>基礎資格 7 に該当する者</p> <p>バカロレア資格証書(Diplôme du Baccalauréat de l'Enseignement du Second Degré)の原本証明された写及びバカロレア資格試験成績証明書(Relevé des Notes)</p> <hr/> <p>基礎資格 8 に該当する者</p> <p>GCE-Aレベル資格試験の成績評価証明書 ※GCE-Aレベル試験において、1 科目以上合格のこと。</p> <hr/> <p>基礎資格 9 に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中等教育の学校(日本の高等学校相当)の卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書 2. 中等教育の学校(日本の高等学校相当)の成績証明書 3. 当該教育施設が国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)から認定を受けていることが確認できる書類 <p>(注) 1 及び 2 は出身学校長発行のものに限ります。</p>
--	--	---

【4 証明書等 注意事項】


(基本的事項)

- 証明書等は、「原本証明された写」と指示がない限り全て原本を提出してください。
- 証明書等は、学校長又は機関の長の作成したものを提出してください(学校長又は機関の長の公印あるいは直筆のサインか、学校又は機関の公印あるいはオフィシャルシールのいずれかがあるものことです。学校や機関のレターヘッド等のテンプレートのみでは書類不備となります。)
- 成績証明書で、科目名、成績評価等が符号又は略字等で表示されている場合は、その説明書を添付してください。
- 改姓名等により現在の氏名と書類の氏名が異なる場合は、公的機関が発行した書類の写を添付してください。
- 証明書等の学校長又は機関の長の公印あるいは直筆のサイン又は学校又は機関の公印あるいはオフィシャルシールが、複製できない用紙ではなく普通の用紙に印影印刷されている場合は受理しません。
- 証明書等が2枚以上にわたる場合の証明印等は、以下のいずれかがなければ原本であるとは認められません。両面印刷の書類は、いずれか片方の面に押印されていれば認めます。
 - ①学校長又は機関の長の公印あるいは直筆のサインか、学校又は機関の公印あるいはオフィシャルシールのいずれかがすべての紙にある。
 - ②書類がホッチキス等で綴じられている場合は、証明書の押印等(複数枚のうちの1枚)に加えてホッチキス等で綴じられた書類の綴じ目の全てに証明書の押印等と同じ割印があること。
 - ③袋とじの場合は、証明書の押印等(複数枚のうちの1枚)に加えて袋とじの表面と裏面にある帯と書類の間にそれぞれ証明書の押印等と同じ割印があること。

(「原本証明された写」の提出の指示がある場合)

- 証明書等は、「原本証明された写」と指示がない限り全て原本を提出してください。「原本証明された写」と指示がある場合、発行機関から証明書が原本1部のみしか発行されない場合は、原本に代えて「原本証明された写」を提出してください。原本の写しであることの証明は大使館、領事館、出身学校、原本の証明書発行機関、公証役場、教育行政を所管する公的機関(Ministry of Education等)で受けてください。翻訳会社は「原本証明を行う機関」ではありません。
- 「原本証明された写」には、原本証明を行った出身学校長又は機関の長の公印あるいは直筆のサインか、出身学校又は機関の公印あるいはオフィシャルシールのいずれかがなければいけません。
- 「原本証明された写」には、「この写しが原本と相違ないことを証明します。」等の記載がなければいけません。
- 「原本証明された写」が2枚以上にわたる場合の原本証明の押印等は、以下のいずれかがなければ「原本証明された写」であるとは認められません。両面印刷の書類は、いずれか片方の面に押印されていれば認めます。
 - ①学校長又は機関の長の公印あるいは直筆のサインか、学校又は機関の公印あるいはオフィシャルシールのいずれかがすべての紙にある。
 - ②書類がホッチキス等で綴じられている場合は、原本証明の押印等(複数枚のうちの1枚)に加えてホッチキス等で綴じられた書類の綴じ目の全てに原本証明された押印等と同じ割印があること。
 - ③袋とじの場合は、原本証明の押印等(複数枚のうちの1枚)に加えて袋とじの表面と裏面にある帯と書類の間にそれぞれ原本証明された押印等と同じ割印があること。
- 「原本証明された写」と指示がある場合でも必要に応じ原本の提示を求める場合があります。

	<p>(日本語又は英語以外の外国語の翻訳証明書について)</p> <p>○証明書等が英語以外の外国語で作成されている場合、日本語又は英語に翻訳し、その内容が原本と相違ないことを以下のいずれかの方法により大使館等で証明を受けたものに加えて、翻訳元となった証明書原本を提出してください。日本語又は英語以外の証明書を翻訳し、原本と相違ないことを示す印鑑の中の文字が日本語又は英語以外である場合、その印鑑のそばに翻訳者が直筆で翻訳文を書き、その横に翻訳者の署名を入れてください。</p> <p>①大使館、領事館、学校で翻訳証明する。学校長又は機関の長名で翻訳証明してください(翻訳証明を行った学校長又は機関の長の公印又は直筆のサイン、学校又は機関の公印あるいはオフィシャルシールのいずれかがあるもののことです)。翻訳証明は大使館、領事館、学校で行う必要がありますが、翻訳者の身分は問いません。</p> <p>②公証人、弁護士等、公的に認められている法律関係有資格者又は翻訳関係公的資格者(いずれも公印捺印のこと)により翻訳証明する。この場合は、翻訳証明を行った者の公的資格を確認する書類も提出してください。公的資格を確認する書類には、証明する機関等の公印、サイン、オフィシャルシールのいずれかが必要です。</p> <p>○翻訳証明書が2枚以上にわたる場合の翻訳証明の押印等は、「原本証明された写」が2枚以上にわたる場合の原本証明の押印等の場合と同様です。</p>	
5	<p>出願資格【要件】 1、2を証明する書類</p>	<p>次のいずれかを提出してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「在留カード」の両面コピー 2. 市区町村発行の「住民票の写し」(原本)で、姓名、国籍、在留資格、在留期間が記載されたもの 3. 上記を提出できない場合(出願期間を含んだ期間の短期滞在者)は、出入国の証印が押印されたパスポートのコピー(すべてのページ) 4. 上記1～3により確認できない場合は、志願者本人がパスポート持参の上、<u>「持参による出願」</u>のみ受付します。
6	<p>日本留学試験成績通知書(日本学生支援機構発行)のコピー又は成績確認書</p>	<p>令和4(2022)年6月実施分若しくは11月実施分又は令和5(2023)年6月実施分若しくは11月実施分のいずれか1つを提出してください。</p>
7	<p>TOEIC Listening & Reading Test 又はTOEFL Testのスコア</p>	<p>出願期間最終日よりさかのぼること2年以内の試験結果とします。</p> <p>(TOEIC Listening & Reading Testの場合)</p> <p>TOEIC運営委員会発行の証明書「Official Score Certificate(公式認定証)」</p> <p>○関係機関が専用紙で発行したもの又はデジタル公式認定証を自分でプリントアウトしたものを提出してください。</p> <p>○TOEIC-IPのスコアは利用できません。</p> <p>(TOEFL Testの場合)</p> <p>公式スコア票「Official Score Report」(TOEFL受験者がアメリカETSに申し込むこと。)</p> <p>○詳細な手続は、必ず8ページを確認してください。</p>

		<p>○TOEFL Testの公式スコア「Official Score Report」が出願期間最終日の17時必着までに届かなかった場合、書類不備となり出願は受理できません。本学に届くまで2か月程度かかる場合もありますので、時間には十分余裕をもって送付手続をしてください。出願期間前にETSから本学に到着させておくことができます。</p> <p>○TOEFL ITP Testのスコアは利用できません。</p>
8	<p>入学検定料 (17,000円)</p>	<p>17,000円 (入学検定料の納入方法)</p> <p>金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)又はコンビニエンスストア(日本国内の店舗のみ)のいずれかの方法により納入してください。</p> <p>1. 金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)による納入方法</p> <p>①本要項添付の所定様式です。</p> <p>「令和6年度入学検定料の納入上の注意(私費外国人留学生選抜用)」の振込依頼書等記入要領に従い必要事項を記入し、「C票 振込金受付証明書(納入確認票貼付用)」、「B票 振込金領収書」、「A票 振込依頼書」を切り離さずに「電信扱」が利用できる金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)から振り込みしてください。振込手数料は志願者負担となります。</p> <p>注1. 通常、金融機関の窓口営業時間は、15時までです。また、土日・祝日は休業となります。</p> <p>注2. ATM・スマートフォン・携帯電話・PC等からは振り込まないでください。</p> <p>②振り込み後は、「C票 振込金受付証明書(納入確認票貼付用)」、「B票 振込金領収書」を受け取ってください。C票、B票に金融機関収納印が押印されているかを必ず確認してください。</p> <p>C票は本要項添付の「納入確認票」所定欄に貼付する必要があります。</p> <p>B票は領収書となりますので大切に保管してください。</p> <p>2. コンビニエンスストア(日本国内の店舗のみ)による納入方法</p> <p>①事前にWebでの申込みが必要です。払込み方法等の詳細は、必ず下記ホームページで確認してください。</p> <p>https://e-shiharai.net/ QRコード</p> 

		<p>②下記の払込み期間中に払い込みください。 払込期間：令和5(2023)年12月13日(水) 0:00から 令和5(2023)年12月27日(水) 15:00まで</p> <p>③払込み後は、「入学検定料・選考料取扱明細書」を必ず受け取ってください。「<u>収納証明書</u>」部分は本要項添付の「<u>納入確認票</u>」所定欄に貼付する必要があります。</p> <p>3. 検定料返還について 出願を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても振り込み済の検定料は返還しません。ただし、次の場合は、令和6(2024)年2月25日までに返還請求を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定料振り込み後、出願書類を提出しなかった者又は出願が受理されなかった者 ・検定料を誤って二重に振り込みした者 <p>なお、返還額は振込手数料を差し引いた金額となります。</p>
9	<p>納入確認票 C票 振込金受付証明書 又は 収納証明書 (納入方法により異なります。)</p>	<p>(金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)により納入した場合) 本要項添付の所定様式です。 金融機関で受領した、「<u>C票 振込金受付証明書</u>」の取扱金融機関収納印を確認し、本要項添付所定様式「<u>納入確認票</u>」の所定欄に糊で剥がれないように貼付してください。取扱金融機関収納印のないものは無効のため、必ず確認してください。取扱金融機関収納印が押印されていないC票の場合は出願を受理しません。</p> <p>(コンビニエンスストアにより納入した場合) 払込み後に交付される「<u>入学検定料・選考料取扱明細書</u>」の「<u>収納証明書</u>」を本要項添付所定様式「<u>納入確認票</u>」の所定欄に糊で剥がれないように貼付してください。</p>
10	<p>宛名ラベル (合格通知書・入学手続案内送付用)</p>	<p>本要項添付の所定様式です。 志願者の日本国内の郵便番号、住所、氏名を記入してください。団地、アパート等に居住している者は、棟番号、戸番を入れ、間借りをしている者は「〇〇様方」と記入してください。 ※印欄は記入しないでください。</p>
11	<p>「受験票在中」封筒 (本学からの受験票送付用)</p>	<p>本要項添付の所定封筒です。 344円分の切手を2枚以内で貼付してください。 ただし、郵便料金が改定された場合は、改定後の速達定形郵便物(25g以内)の郵便料金分の切手を貼付してください。 記入は「宛名ラベル」に準じ、志望学部も記入してください。</p>
12	<p>「入学願書在中」封筒</p>	<p>本要項添付の所定封筒です。 出願書類を本学に持参又は郵送する際に使用する封筒です。封筒表の志望する学部名、志願者住所・氏名欄に記入し、出願書類を整え、封入してください。</p>

出願上の注意事項

1. 出願書類に記入する文字は黒のボールペン書き(摩擦等の温度変化で筆跡が透明化するボールペンは使用不可)とし、楷書で正確に記入してください。
2. 記載事項を訂正する時は、誤記部分を2本線で抹消しその上に訂正印を押印してください。修正液類の使用や紙面の削り取り等はしないでください。
3. 出願書類等に不備がある場合は、受理しません。
4. 出願後の書類は、一切返還しません。
5. 出願後は記載事項の変更は認めません。ただし、出願後、転居等の理由により、入学願書、宛名ラベル(合格通知書・入学手続案内送付用)、「受験票在中」封筒(本学からの受験票送付用)に記入した住所、連絡先に変更があった場合は、直ちに志望した学部まで簡易書留速達郵便で届け出てください。届け先は本要項裏表紙裏面【私費外国人留学生選抜に関する問合せ先】を参照してください。
6. 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。

受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障がいのある者等、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、事前に電話連絡した上で事前相談の申請をしてください。連絡先は、本要項裏表紙裏面【私費外国人留学生選抜に関する問合せ先】を参照してください。

入学者選抜方法等

入学者選抜方法は、日本留学試験の成績、本学が実施する面接の結果及び出願書類により総合して行います。

なお、面接は日本語で行います。

学力検査等

	日本留学試験 (2022年6月実施分若しくは11月実施分又は2023年 6月実施分若しくは11月実施分のいずれか)				本学が実施する 学力検査等	配点 合計	備 考
	日本語 (「記述」は除く)	総合 科目	理科	数学	面接 (日本語)		
経済学部	○	○	×	○	○	2000	上段の○、※印は配点対象であることを表し、下段の数字は配点を表します。 なお、日本留学試験の科目の選択、※印の「総合科目」と「理科」の選択は、【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test 又は TOEFL における出願要件】によります。
	400	200	—	200	1200		
システム 工学部	○	×	○	○	○	1600	
	400	—	200	200	800		
観光学部	○	※		○	○	1600	
	400	200	200	200	800		

試験日時及び試験場

令和6(2024)年1月21日(日)

学 部	学力検査等	試験開始時刻	試 験 場
経済学部	面接	13:30	和歌山大学西2号館(和歌山市栄谷930)
システム工学部			和歌山大学北1号館(和歌山市栄谷930)
観光学部			和歌山大学西2号館(和歌山市栄谷930)

受験上の注意事項

- 試験当日は、
「和歌山大学私費外国人留学生選抜受験票(以下「和歌山大学受験票」)」と
「出願時に提出した日本留学試験成績通知書と同じ回の受験票」
を持参してください。
- 和歌山大学受験票は、学力検査等の受験後も、入学手続きの際に必要となりますので試験終了後も大切に保管してください。

合格者発表

令和6(2024)年2月9日(金) 9時

和歌山大学構内の所定の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には速達郵便により送付します。合格通知書、和歌山大学受験票は、入学手続きの際に必要となりますので試験終了後も大切に保管してください。

不合格者への通知は行いません。また、電話、メール等による可否の問合せには応じません。

入学手続

合格通知を受けた者は、入学手続期間内に入学手続を行ってください。入学手続の詳細は、合格通知書とともに送付する「入学手続案内」で指示します。

入学手続方法(予定)

「入学手続案内」を熟読の上、必要書類等を整え、書留速達郵便で令和6(2024)年2月15日(木)17時まで【時間厳守】に本学入試課必着するように郵送してください。ただし、令和6(2024)年2月15日(木)15時から17時に限り、「持参による方法」の入学手続受付を行う予定です。

入学手続期間(予定)

令和6(2024)年2月15日(木)17時までに本学入試課必着

ただし、令和6(2024)年2月15日(木)15時から17時に限り、「持参による方法」の入学手続受付を行う予定です。

提出書類

提出書類	備考
和歌山大学私費外国人留学生選抜受験票	照合し、入学手続完了後返却します。
合格通知書	照合し、入学手続完了後返却します。
入学料	282,000円(下記注参照) 本学所定の振込依頼書により、入学手続時までに納入してください。私費外国人留学生を対象とした入学料免除、入学料徴収猶予制度はございません。 令和6(2024)年度入学者の納入金額及び納入方法の詳細は「入学手続案内」でお知らせします。
その他	上記以外の必要書類は、「入学手続案内」で指示します。

注1 上記記載の金額は、令和5(2023)年4月現在のものです。

注2 入学料の改定が行われた場合には、改定後の金額を納入することになります。

注3 既納の入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

(ア) 誤って二重に納入した場合

(イ) 入学手続を行わなかった又は完了しなかった場合

注4 入学料の納入のみでは、入学手続を完了したことにはなりません。

入学前の主な諸経費(単位:円)

諸経費	経済学部	システム工学部	観光学部
学会費・同窓会費・後援会費	52,000		10,000
研修・実習経費	10,000		5,000
学生団体諸会費	20,500	20,500	20,500

注1 上記記載の金額は、令和5(2023)年4月入学者のものです。令和6(2024)年4月入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。

入学後に必要な納付金

授業料 半期分 267,900円 年額 535,800円

注1 上記記載の金額は、令和5(2023)年4月現在のものです。

注2 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

注3 令和6(2024)年度入学者の納入金額については、決定次第、別途お知らせします。

注4 私費外国人留学生を対象とした授業料免除制度はございません。

入学手続に関する注意事項

1. 入学手続期間中に入学手続を完了しない場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。
2. 入学手続完了後、高等学校等の課程を卒業(修了)しないなどの事由が生じた場合は、入学許可を取り消します。許可を取り消した場合は、入学料の返還はできません。
3. 入学手続完了後、理由の如何に関わらず入学を辞退する場合は、令和6(2024)年3月29日(金) 17時までに「入学辞退願」を本学入試課に提出し、その許可を得てください。入学手続完了後に入学を辞退した場合は、入学料の返還はできません。令和6(2024)年3月29日(金) 17時を超えての「入学辞退願」は受付しませんので注意してください。

個人情報取り扱い

本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」等に基づき、厳密に取り扱います。

1. 出願書類等に記載された個人情報は、「入学者選抜(出願処理、選抜試験実施)」、「合格者発表」、「入学手続」の入試業務、「入試の改善や志願動向等の調査・研究」、「その他の本学における諸調査・研究等」を行うために利用します。出願書類等に不備があった場合には、その訂正・補完を迅速に行っていただくために、本学に出願していることを、保護者等又は出身学校に連絡する場合があります。

なお、入学者については、「入学者の受入準備」、「教務関係(学籍管理、修学指導等)」、「学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金業務、就職支援等)」、「授業料等収納業務」を行うために利用します。

2. 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係(授業料免除・奨学金業務等)」を行うために利用します。
3. 一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して個人情報を提供します。
4. 捜査機関等が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて、相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供します。

入試情報の開示

志願者数・受験者数・合格者数・入学者数

和歌山大学ホームページ「入試情報」<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/> でお知らせします。

学部の紹介

1. 経済学部

本学部は、1922年(大正11年)に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、100年にわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。この間、時代と社会の要請にこたえながら、経済社会の理解に不可欠な学問分野である経済学、経営学、会計学、情報学、法学の教員を揃え、論理的思考力、専門知識、実務能力、幅広い教養を有する人材の養成に努めてきました。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。また、本学大学院経済学研究科修士課程に進学する学生もいます。優秀な成績を修めた学生は、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

近年の多様化・複雑化する社会においては、複数の学問分野にまたがる専門知識を活用し、一人ひとりが他の人と協力しながら問題を発見・解決する能力が求められています。そのような能力・資質を身につけるために、本学部のカリキュラムは、経済学、経営学、会計学、情報学、法学の各学問領域での体系的な学修に加え、これらのうちのいくつかの学問領域の学修を組み合わせています。その上で、卒業後の進路において必要となる専門知識や実務能力などを考慮して横断的な学問領域における授業科目を体系化しています。学生は初年次から将来の自分の姿を思い描きながら主体的・計画的に学修を進めます。このカリキュラムでは、学修目標とそれによって目指せる可能性のある代表的な進路を想定し、次の「プログラム」を設けています。

「グローバル・ビジネス&エコノミー」

グローバルな視点から経済領域・経営領域で種々の課題に対応できる能力を身に付け、グローバル企業、国際機関、NPO・NGOなどにおいて中心的な役割を担える人材となることを目指します。

「ビジネスデザイン」

新たな視点から事業、企業の再活性化に取り組める能力を身に付け、企業の企画部門などにおいて、高い企画力を持って組織変革や業務改善を担える人材や、起業家などを目指します。

「企業会計・税法」

会計学及び税法の視点からの実務能力を身に付け、企業の経理・財務部門において、会計・法制度の知識をもとに組織活性化の支援に取り組む人材や、税理士、公認会計士、不動産鑑定士、国家・地方公務員などを目指します。

「地域公共政策・公益事業」

地域社会における課題解決能力を身に付け、地域の活性化を支援する国家・地方公務員や、公益性の高い事業主体の職員などを目指します。

「サステイナブル・エコノミー」

経済における持続可能性を実現できる多様性・柔軟性を有する能力を身に付け、企業のCSR関連部門、社会的企業、環境NGO・NPOなどにおいて、多様な利害関係者と各組織の橋渡しとなれる人材となることを目指します。

「エキスパート・コース」

3つのユニット(「グローバル・ビジネス&エコノミーユニット」「都市と地域ユニット」「市場・企

業分析ユニット)」から希望するユニットを選択し、それぞれの専門分野の研究に必要な基礎的能力を修得します。それをふまえて大学院進学を目指します。

2. システム工学部

システム工学部システム工学科の特色

近年、科学技術の急速な発展に伴い、様々な工業技術が高度化・専門化してきました。また一方で、複数の専門分野の成果を複合的・横断的に応用することが、新しい技術開発や地域産業の再生につながるようになってきました。つまり、現在社会において、「高度な専門性」と「複数の技術領域を見通す力」の両方が求められています。このような産業界や社会の要請に、より柔軟に対応できるように、システム工学部では、それまでの5学科を1つの学科(システム工学科)に統合し、10の教育研究課程(メジャー)を設けました。これにより、学生自らが将来を志向し、各自の興味や資質に見合った2つのメジャーを主体的に選択すること(ダブルメジャー制)でコースを構成し、複数の専門分野を学ぶことができるようになりました。

さらに将来に目を向けると、情報関連技術を基盤とする先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会であるSociety 5.0に対応できる工学人材を創出することも求められるようになってきています。これを受けてシステム工学部では、令和5年度に向け、将来にわたる技術動向を精査して、メジャーを3つの大きな専門分野の括り(領域)に分類し、これまでの10メジャーを8メジャーに再編しました。主な特色として、情報教育を重視し、更なる充実を図るとともに、システム工学科で共通化します。これにより、専門分野にかかわらず、情報技術をベースとした広範かつ柔軟な専門性を養うことができます。また、2年終了時に、学部のみ4年制に加えて、学部から大学院博士前期課程までの一貫教育である6年制に進む選択も可能とします。6年制では、より高度かつ実践的な専門教育を行うことにより、複数の専門技術を有機的に融合させて課題の解決に導く能力をさらに高めることができます。なお、再編後もこれまでどおり、ダブルメジャー制によって、領域にとらわれずに複数の専門分野について学修することができます。

以下に、各メジャーの教育目的とメジャーの組み合わせによるコースをいくつか示します。

・ロボティクスメジャー

ロボットなどに代表されるメカトロニクス機器を効率的に設計し安全に運用するための技術を身につけます。対象となる分野は幅広く、ソフトウェアからハードウェアまで、機械+電気+情報についてバランスよく学びます。

・電子物理工学メジャー

物理学、光工学、電気電子工学、材料工学などの分野を扱います。物質科学に関する基礎を身につけた上で、フォトンクスやエレクトロニクスの材料開発から応用技術を学びます。

・化学メジャー

身の回りでは、原子や分子の結びつきにより生命活動や様々な物質・材料形成が行われています。このような生命活動に関わる物質や、身の回りの物質・材料の性質を理解し、その創造や性能の発現、産業への応用に関する技術について学びます。

・環境科学メジャー

環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破壊を未然に防ぎ、自然災害

から命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。

・ **建築・ランドスケープメジャー**

環境に配慮した建築について、インテリアデザインから都市計画まで、身近な自然から森林まで、様々なスケールや地域における環境と生活空間を対象として、自然と調和する技術や建築設計、地域づくりについて学びます。

・ **情報システムデザインメジャー**

人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計・開発する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探求するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

・ **ネットワークコンピューティングメジャー**

あらゆる人やモノがネットワーク接続されるデジタル社会において、人や社会を守り、新たな価値を創造する技能を身につけます。インターネットやモバイル通信だけでなく、センサを社会活用するIoT、情報セキュリティ、ネットワーク分析等について学びます。

・ **クロスリアリティ・情報デザインメジャー**

現実世界と仮想世界(メタバース)が融合する時代に向けて、現実世界に働きかけるロボティクス、メタバースを実現するコンピュータグラフィックス(CG)、それらと人を繋ぐ仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、ならびに情報デザインについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー、期待される就職先

コース名	メジャー名	期待される就職先
メカトロニクス	・ロボティクス ・電子物理工学	機械、電機、自動車、精密機械、光学、医療応用機器、電子部品
知能機械システム	・ロボティクス ・情報学領域から1つを選択	自動車、電機、精密機械、生産機械、医療機器、情報通信産業、サービス産業
ナノテクノロジー	・電子物理工学 ・化学	半導体・電子部品、精密機器、化学・医薬品・化粧品、素材
先端情報ネットワーク	・情報システムデザイン ・ネットワークコンピューティング	情報通信産業を含む幅広い産業におけるソフトウェア・インフラ・AI・ネットワーク・セキュリティエンジニア
社会情報システム	・ネットワークコンピューティング ・クロスリアリティ・情報デザイン	情報通信産業を含む幅広い産業におけるネットワーク・インフラ・AI・CG/VR/ARエンジニア、UX/UIデザイナー
創造情報デザイン	・クロスリアリティ・情報デザイン ・情報システムデザイン	情報通信産業を含む幅広い産業におけるソフトウェア・AI・Web・CG/VR/ARエンジニア、UX/UIデザイナー
環境デザイン	・環境科学 ・建築・ランドスケープ	公務員(土木、建築、造園)、建築・住宅、環境プラント
環境化学	・環境科学 ・化学	化学・環境職公務員、環境プラント、化学メーカー

○システム工学部では、スーパーサイエンティストチャープログラムを設けます。

これはシステム工学部卒業後、本学教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)に進学し中学校理科又は中学校数学の教員免許の取得を目指すプログラムです。

3. 観光学部

21世紀は「観光の時代」。世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されるのが観光です。日本においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性、さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。和歌山大学観光学部は、観光教育研究における日本の、そしてアジアの拠点として、これらの人材養成に応えるべくさらに進化します。

観光学部の特色

- ①観光学は人間の生活・文化に関わるあらゆる分野を総合した学問であることから、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を融合的・横断的に学ぶことのできる充実したカリキュラムを用意しています。
- ②最先端の観光理論を学ぶことはもちろん、教員と学生が自治体と連携して地域課題の解決に取り組むプログラムや海外の連携大学等と共同で取り組むエリアスタディ等の機会を通じて、社会の各方面から即戦力として期待される実践力が身につきます。
- ③ハイレベルな観光人材に相応しい教養の醸成を重視し「観光プロデュース論」「日本文化演習」などユニークな実践科目を配置するほか、「Global Program(GP2.0)」の導入を通じて国際化時代における言語面でのバリアフリー化を進めます。

学生生活

(1)ノートパソコンの準備

本学では、個人所有のノートパソコンを活用した授業が実施されています。また、履修登録やレポート及び論文の作成・提出など数多くの機会にパソコンとインターネットを活用しますので、入学までに各自でノートパソコンを必ずご準備ください。

なお、本学ではMicrosoftと包括ライセンス契約を結んでおり、Microsoft 365(Word, Excel, PowerPoint 他)を在学中無償で利用することができます。また、学内には無線LANを整備していますので、在学中自由に利用することができます。

詳細につきましては、下記ホームページにて随時公開すると共に入学手続き時に改めて案内します。

https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/essential_pc/



(2)問合せ先

問合せ事項	問合せ先
外国人留学生の宿舎、奨学金、保険など	国際交流課 TEL 073-457-7524
ノートパソコンの準備	学術情報課 TEL 073-457-7177

私費外国人留学生選抜に
関する問合せ先

和歌山大学

《入試及び学部照会先》

〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学

【経済学部】学務課 学部等支援室 経済学部係 TEL 073-457-7805

【システム工学部】学務課 学部等支援室 システム工学部・社会インフォマティクス学環係
TEL 073-457-8021

【観光学部】学務課 学部等支援室 観光学部係 TEL 073-457-8542

〈注意〉

- ・本入試に関する全ての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- ・この学生募集要項以外に重要な通知がある場合は、本学ホームページの「入試情報」(<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>)でお知らせします。
- ・電話での照会は、祝日及び年末年始(12月29日～1月3日)を除く、月～金曜日の9時から17時(12時から13時は除く)に、この学生募集要項を手元に置き、必ず志願者本人が行ってください。